

町長室から

台風3号

による九州地方の「記録的短時間大雨」で大きな被害が発生し、1週間たった現在も25名の人命を失い、22名が行方不明、避難者は1400名にのぼっており、遺体は自宅から50km離れた地点から見つかるなど広範囲な捜索活動が続ぎ、復旧のめどが立っていないようです。

損壊家屋も多数にのぼります。が、崖崩れや山からの大木が損害を拡大させている様子が見取られます。

昨年十勝でも大雨で河川の氾濫による被害を受けた町があり、その時の様子が思い出されます。だけに、被害者の皆さんに心からのお見舞いとお悔やみを申し上げますとともに、天災の被害を食い止める方法はないものかと思わざるをえません。

7月8日には浦幌町が35・6度を記録し、日本で一番暑い町になるなど、急に猛暑になりました。6月の低温注意報が嘘のようです。

その猛暑の中で、モンゴルのお祭りである「ナーダム」が北海道モンゴル交流協会の主催で、森林公園を舞台に行われました。北海道在住のモンゴルの人だ

ちが60人ほど集まり、モンゴル衣装のコンテスト、モンゴル相撲、弓射などを行い、楽しまれましたが、2010年にはユネスコの無形文化財にも登録されており、モンゴル本国においても建国と独立のシンボルとして夏に開催されている民族の祭典です。

11時からの開催予定でありましたが、始まったのは30分以上遅れで見学にいられていた町民の皆さんは痺れを切らしていたのではないかと思いますが、主催者は悠然としており、大陸の国らしく時間はあまり気にしないようで、お国柄の違いを感じました。

開会式の時は調べたモンゴル語で「サイン バイノー」(こんにちは)「ナマイグ Kazuh iro Mizusawa Gedek」(私は水澤一廣といいます)「サイハン ナーダレイ」(ナーダムおめでとうございます)と挨拶しました。

もちろんモンゴル語を話せるわけがありませんので、イントネーションはでたらめで、相手に通じたかどうかわかりませんでした。笑いと拍手はいただきました。

浦幌消防創設100周年記念

式典を開催しました。

非常備組織の浦幌町消防団は、大正5年8月に浦幌町で発生した大火を教訓に、大正6年秋に「火災消防組合」として発足したのが始まりです。

以来、「自分の町は自分で守る」の消防精神を糧とし、幾多の火災や災害を乗り越えて組織の改変を経ながらも、先人たちがら精神と技量を受け継ぎ、全道消防操法大会では第1分団、第4分団が優勝、第2分団は優秀賞に輝く成績を収め、浦幌消防団の名声を高めました。

北海道では6箇所目、十勝では初めてとなる消防の最高名誉である「纏(まとい)」が平成9年に贈呈されています。

十勝総合振興局の坂部副局長、東部3町から消防団長及び消防関係者らに多数ご臨席いただき、功労者や消防団協力事業所への表彰も行いましたが、厳粛な中にも盛大な式典であり、式典の最後に消防団員から未来への誓いも宣言されました。

式典の前には第4分団の小隊訓練、他の分団は消防操法を行い、火災や災害から町民の身体生命、財産を守る消防団の崇高なる使命をはたすとの決意を示

すきびきびとした行動に、来賓や見学されていた町民の皆さんから拍手とともに信頼を寄せられた一日となりましたが、「火災だけではなく最近の自然災害にも対応を求められており、消防団の使命はますます大きくなりますが、これからも訓練を重ねて町民からの信頼に添えていただきたい」と挨拶させていただきました。

今年も岩手県洋野町から水上町長とパークゴルフ協会の11名の皆さんが来町され、町民の皆様も多数参加される中で「第22回洋野町長杯パークゴルフ大会」が開催されました。

洋野町とは平成26年に「洋野町・浦幌町友好の町絆協定」「災害時相互応援協定」を締結して以来、子どもたちの交流をはじめ、消防団幹部が来町されたり議会議員の皆さんや水産振興会の皆さんが訪問したりと、各層での交流が盛んになっています。が、次には洋野町議会の皆様が来町される計画が組まれています。

部屋の中でも熱中症になるといわれます。暑い日が続くようですので、水分をこまめにとる等の対策をお忘れなく。

浦幌町長 水澤一廣